



令和7年度 小学部 遊びの指導の実践事例

題材名：料理などを作ったり、お店の人やお客さんになったりして、食べ物屋さん
ごっこをしよう

授業者:大谷 保裕

教材について

本グループの児童は、身近なものに見立てたものを作り続けたり、仕方やルールなどを友だちに提案したりして遊ぶことが多い。また、ルールや勝敗のある学部合同の遊びの中では、友だちと協力して遊ぶ姿も見られるが、比較的自由度の高い遊びの中で、友だち同士でかかわることは少ない。本実践の食べ物屋さんごっこは、児童たちが日頃利用している飲食店を取り上げることで、料理などに見立てたものを作る活動が仕組め、児童たちが興味・関心をもちやすいと考えた。また、店員と客という明確な役割があり、児童の興味・関心に応じたお店を複数設置することで、メニューを注文する、注文に応じて料理を作って渡す、ものの貸し借りをするなど、友だち同士でやり取りをしながら遊ぶことが期待できると考えた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容	生活科 小学部2段階 オ 人との関わり	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容	国語科 小学部2段階 A 聞くこと・話すこと
知・技	:(イ)身近な人との接し方などについて知ること。	思・判・表	:エ 挨拶をしたり, 簡単な台詞などを表現したりすること。
思・判・表	:(ア)身近な人を知り, 教師の援助を求めながら挨拶や話などをしようとすること。		
学 び	:ウ 自分のことに取り組もうとしたり, 身近な人々, 社会及び自然に自ら働きかけよう としたり, 意欲や自信をもって学んだり, 生活に生かそうとしたりする態度を養う。		

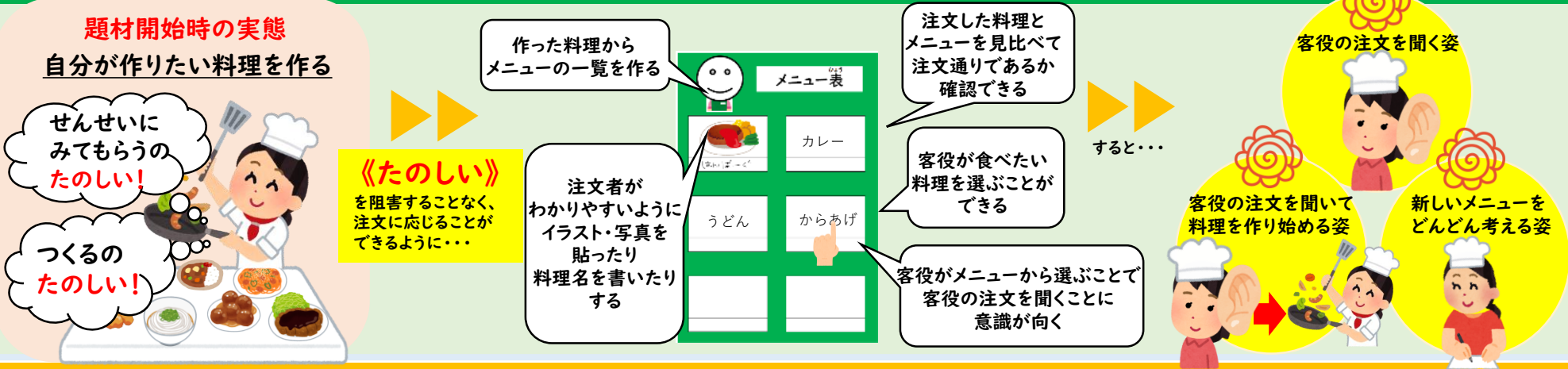
題材目標

知・技	『食べ物屋さんごっこ』の店員役になって、客役の友だちの注文に応じる時、友だちが喜ぶ楽しさがわかり、注文の料理を作り、友だちに持って行って渡して遊ぶ
思・判・表	『食べ物屋さんごっこ』の店員役になって遊ぶ時、自分が作りたい料理を作る、友だちの注文に応じた料理を作り、持って行って渡すなどして、30分程度続けて遊ぶ
学 び	友だちの注文を聞いて料理を作って持って行く遊びを繰り返す
配 慮	店員役として注文を受けたり、料理を渡したりする時に、場面に応じた話し方でやり取りをする

授業評価

知・技	客役の友だちの注文を聞いて、注文通りにハンバーグやカレーなどの料理を作る、友だちに「どうぞ」などと言いながら渡して遊ぶようになった。
思・判・表	自分が作りたい料理や、友だちの注文に応じたハンバーグやカレーなどの料理を作る、「できたよ」、「どうぞ」などと言いながら渡すなどして、30分程度続けて遊ぶようになった。
主 体	題材後半の毎回の授業で、友だちの注文を聞いて、注文通りにハンバーグやカレーなどの料理を作り、「どうぞ」などと言い、持って行く遊びを30分程度続ける姿が見られた。
配 慮	「いらっしゃいませ」「どうぞ」「おすすめです」などと言って、注文を受けたり、料理を渡したりする場面に応じた話し方でやり取りをする姿が見られた。

遊びを楽しみながら注文に応じることに目を向けるための教材の工夫



友だちが喜ぶ楽しさがわかるための指導の計画の工夫



考察

○料理を持って行った時に、友だちがどんな反応してくれるか待つ姿や友だちが注文した料理を作り、友だちとやり取りする姿が多く見られるようになった。
→友だちの様子に目が向くように、料理を持って行った時の友だちの様子を教師が伝えるなど、友だちに料理を持って行って渡すことの楽しさを意味づけるようにすることで、自分から友だちと関わりながら遊ぶようになったと考える。今後は、店員役だけでなく、客役でもやり取りを楽しめるように、教師と一緒に友だちのお店に注文しに行くことから始め、客役の楽しさを意味づけながら、やり取りを楽しんで遊ぶ場面が広がるようにしていきたい。
→教師の働きかけをフローチャート形式にしてまとめ、教師間で共通理解することで、児童の出方に応じた働きかけをすることができた。様々な出方に応じた働きかけを想定しておく必要性を改めて感じた。